

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|--------|----|----------------------------|-------|---------------|-----|---------------|----|
| 連番 | 1107 | 例会No. | OP 359 | 内容 | 熊野古道(果無集落～果無峠～熊野本宮大社) | 実施年月日 | 2022/11/5～6 | 担当者 | 野原、三原(秀) | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1108 | 例会No. | 一般 743 | 内容 | 紅葉の平石(高貴寺)～岩橋山～河内(弘川寺) | 実施年月日 | 2022/11/13 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1109 | 例会No. | OP 360 | 内容 | 日本コバ(934m)御池岳(1247m) | 実施年月日 | 2022/11/19～20 | 担当者 | 小椋(勝)、前田 | |
| 参加者 | 小椋(勝)、前田、大森 安岡 上野 谷 中村 北山 佐野 小椋(美) | | | | | | | | 参加者数 | 10 |
| 担当者コメント | <p>11月19日 先日からの天気予報では日曜日は雨の予報、土曜日は晴れ時々曇りなので急きょ、長い工程になると思い日曜日に予定していたテーブルランドを土曜日に変更。移動時間が長いので薄暗い中での下山になるかなと心配しつつ車を走らせ駐車場に着くともう20台ぐらいの車が止まっています。</p> <p>早々に挨拶を済ませ駐車場から林道を歩き登山口へ。登山口からP878まで急登が続くP878から尾根へ出ると小さなアップダウンが続く、樹林の間から見えてくるボタンブチは迫力がありました。しばらく歩き台地の直下に差し掛かり最後の急登を切り切るとテーブルランドへ出る。台地を周遊しボタンブチから奥の平P1194を通過し台地の南端の下山口へと向かう。下山口から見ると転げ落ちそうな急斜面を下降し土倉岳へと向かう。尾根道をしばらく歩き夕ノ坂から林道に出、駐車場へと向かった。思ったより早く下山でき、明るいうちに泊地のキャンプ場に向うことができました。11月20日 雨の予報が外れ薄日が差す空模様、油断していたため起床時間まで熟睡し慌てて朝ご飯を済ませ出発。数年前に紀伊塾本顧問の例会で日本コバに来た時の登山口近くの駐車場を思い出しそこに駐車。朝早いので駐車場には車はなく助かりました。藤川谷登山道はもう紅葉も終わりに近く冬への装い、名残惜しい紅葉の登山道を山頂に向かう。途中、石灰岩の岩場が現れる。岩場を登りきると奇人の窟があり中に入り見学する。奇人の窟から少し登ると緩やかな登山道になり秋の山の登山道の落ち葉を踏みしめしばらく歩く。山頂に着き昼食を取り今回の目的の日本コバの周遊にむかう。この山もカルスト台地で山頂付近が陥没したのか周囲が外輪山を形成している。その尾根道を周遊する。単調な道だが心地よい。しばらく歩くと政所下山道に出る。そこから長い下山道を疲れ知らずの女性たちの話し声が弾む中、急な尾根道を下降し政所の集落へ出る。ふもとの紅葉はまだ真っ盛りでその紅葉の中駐車場へ向かって歩き帰途に着きました。記:小椋(勝)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1110 | 例会No. | 一般 744 | 内容 | 金剛山・カトラ谷 | 実施年月日 | 2022/11/20 | 担当者 | 森本(善)、山倉(康) | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1111 | 例会No. | 一般 745 | 内容 | 天野街道から天野山金剛寺へ 郷土巡りシリーズNo.2 | 実施年月日 | 2022/11/27 | 担当者 | 紀伊塾本(節)、小椋(勝) | |
| 参加者 | 前田、上野、中村、大森、西向、和田(敬)、喜多田、飯尾、中川、森本(善)、中原(俊)、中原(正)、小椋(美)、神阪、谷、佐野、秋田、紀伊塾本(博) | | | | | | | | 参加者数 | 20 |
| 担当者コメント | <p>秋晴れに恵まれました。天野街道は予告のとおりほとんど平坦な丘陵を辿ります。お目当ては、平成の大修理を完成した金剛寺と美しい紅葉の見頃、そしてそこに至る街道の様々な歴史にありました。戦国の覇者北条氏直の痕跡は、残念ながらこの街道では直接目にするには出来ません。しかし一方で、この地域は地政学的に大変興味のあるところです。天野山を起点とする細長い川の流れが、大阪南東部の広大な田畑を扇状に潤す、唯一の水源となっているのです。下里には『昔々、弘法大師が疲れ果てた虚無僧姿で一杯の水のある村で求めたところ素気無く断られたという。ところが、ひとつ峠を越えた下里の村では丁重に一杯の水を恵んでくれたという。弘法大師は「下里の水は神の水」とこの地に伝承を残しました』この話、実は下里で生まれ育った前田守さんが、今日歩きながら私に語ってくれたことです。弘法大師には水に纏わる逸話が多い様ですが「下里の水」は初耳です。この里の水を大事に扱う伝承が、弘法大師の名を借りて残されていることに驚きました。奈良時代に創建された金剛寺と、同じ時代に造られた日本最初のダム式狭山池は、その後幾多の治世者の手厚い保護を経て今なおここに健在です。「水の流れば政」それが大きな伏線となって、歴史は流れているものだと思います。次回「郷土巡り」もまたよろしく願います。記:紀伊塾本(節)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1112 | 例会No. | 一般 746 | 内容 | 虚空蔵山(こくぞうさん) (596m) | 実施年月日 | 2022/12/4 | 担当者 | 前田、小椋(勝) | |
| 参加者 | 佐野、駒井、大森、小椋(美)、中村、森本(善)、谷、黒澤、安本(昭)、安本(嘉) | | | | | | | | 参加者数 | 12 |
| 担当者コメント | <p>藍本駅で降りて少し行くと、古い歴史のある酒垂神社がある。見学をしたいが先を急ぐので案内板を読んで通り過ぎた。里道に入り舞鶴自動車道のガードをくぐった所に登山口が有った。ここから落ち葉の積もった沢沿いの道を登った後、石畳が続いていた。30分程で虚空蔵寺に着いた。聖徳太子が開祖でかつては大伽藍があったとされる寺も、今は人気がなくひっそりと山の中に佇んでいた。ゆっくりしたいが、今にも雨が降りそうなので急いで出発した。そこから急坂を登ると、山頂手前の岩場(丹波岩)に着いた。ここからは眼下に北摂や丹波の山々が広がっていて眺めがよい。直ぐ横の虚空蔵山の山頂で休憩を取った。山頂から尾根に沿って進むと、右側は武庫川や福知山線が、左側は丹波焼き物の里、立杭が眼下に良く見えた。八王子山、大谷山と登り下りを繰り返して最後に急坂を下ると旧街道に出た。そこから丹波の里を歩いて草野駅に到着。駅にて解散をした。駅から山容が見えないが、歴史があり、交通の便が良く、手軽に楽しめる山だった。記:前田</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1113 | 例会No. | 一般 747 | 内容 | 大和葛城山 故板谷佳史元代表追悼登山 | 実施年月日 | 2022/12/11 | 担当者 | 山倉(康)、西村(晶) | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|--------|----|------------------------|-------|------------|------|-------------|
| 参加者 | 松田 前田 森本 松本 翁長 大石 中村 中原(正) 中原(俊) 村木(正) 中川 西向 谷 喜多田 中嶋 和田 (敬) 實操 野原 寺島 三原 近藤 寄川 飯尾 紀伊 榎本 木下 北山 村木(と) 駒井 古松 本田(和)(多)(孝) (健) 秋田 神阪 安岡 安本(昭) 黒澤 安本(嘉) 佐野 上野 小椋(勝) 小椋(美) 杉本 大森 | | | | | | 参加者数 | 47 | |
| 担当者コメント | 山を長くやっていると、何かをきっかけに山仲間と知り合うきっかけがあると思います、現役時代の山岳会での出会い、EPEクラブでの出会い、又知り合いの紹介等、今回の追悼登山にもこの様なつながりで多くの方々に参加していただき、板谷さんも雲の上から喜んでおられるのではないかと思います。今回は多くの方の参加が見込まれたため、葛城山頂へ各自それぞれのコースで来ていただくようにしました、その結果、水越登山口からは天狗谷コースと、ダイレを辿る人、又弘川寺道からの人、ロープウェイ利用の方々とは様々でした、頂上から場所を移してロープウェイ駅近くの屋根付き休憩所で故人をしのいでのお話会で、山岳会現役当時の思い出や、板谷さんの人格をうかがえる話などを聴きました。これからも、いろいろな出会いで知り合った山仲間と、スタイルや価値観の違いを超えて、お互い切磋琢磨しあい、楽しい登山を続けられるといいと思います。改めて板谷さんのご冥福をお祈りしたいと思います、ありがとうございます。記:山倉(康) | | | | | | | | |
| 連番 | 1114 | 例会No. | 一般 748 | 内容 | 天辻峠～乗鞍岳 歴史探訪シリーズ No.49 | 実施年月日 | 2022/12/18 | 担当者 | 小椋(勝)、森本(善) |
| 参加者 | 佐野、村木(と)、村木(正)、谷、小椋(美)、中野(体験参加) | | | | | | | 参加者数 | 8 |
| 担当者コメント | 朝起きると山沿いでは雪 五条駅も時おり雪がちらつく空模様、予定を変更し道の駅から乗鞍岳の往復とすることにし出発する。車で道の駅吉野路大塔まで行き軒下を借りて挨拶をすませ歩き始める。国道を渡り、道を挟んで向かい側にある天誅組本陣跡へと向かう坂道を登っていく。途中旧街道らしき道に入り歩いていると雪掻きをしている地元の人がいたので聞いてみるとこの道は旧街道ではないらしく旧街道はわからないと教えてくれました。ただ、佇まいは旧街道の趣がありました。しばらく歩き天誅組本陣跡に着くそこからしばらく林道を歩き天辻峠を越え乗鞍岳登山口に着く登山口から尾根道を寒風吹く中、登って行くと乗鞍岳に着く 寒いので早々と引き上げることが帰りは念のためアイゼン着用する。途中、天誅組本陣跡の御堂を拝借し天誅組の始末記を話す。お昼ご飯を食べた後下山し帰途に着きました。今日は寒い一日でしたが天誅組の隊士達はこの雪の中を草鞋1つで山を越えていったことを考えると、このエネルギーは何処から湧くのか、何を心の支えにしていたのかと切なくもあり心を揺さぶられた1日でした。記:小椋(勝) | | | | | | | | |
| 連番 | 1115 | 例会No. | 一般 749 | 内容 | 京都・愛宕山 | 実施年月日 | 2022/12/25 | 担当者 | 野原、西村(晶) |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 天候不良中止 | | | | | | | | |
| 連番 | 1116 | 例会No. | 一般 750 | 内容 | 新年登山 旗尾山、府庁山 | 実施年月日 | 2023/1/8 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 |
| 参加者 | 山倉、渡辺、飯尾、西向、中原(俊)、中野、谷、中村、三原、中原(正)、松本、有永、安岡、黒沢、佐野、前田、木下、小川、大森、西村(晶)、西村(美)、堀、村木(正)、村木(と)、祓川 | | | | | | 参加者数 | 27 | |
| 担当者コメント | 2023年最初の例会とあって総勢27名の大所帯。天美駅で新年の挨拶と例会最多参加賞の授与を済ませ歩き始める。新しくできた交通量の多い371号線を車に気を付けながら横断するが見えにくいので横断に際しては細心の注意を払う。今日は割と気温が高く冬装備できた人は汗をかきながらの旗尾山への登山になった。旗尾山までは久しぶりに会った人たちがワイワイガヤガヤと大きな声と笑顔で近況を語り合いながら楽しく登っていました。旗尾山から冬枯れの稜線を府庁山へと向う、府庁山で休憩し十字峠から石見川支流の谷筋をダイヤモンドトレイルへと向かって歩く人が通ってないのか少し荒れて草木も多い登山道と多い人数なので苦労しながらトレイルへと向かった。新年の始まりでこの道はなかなか面白いと自分で納得しながら進む。谷筋から見上げると明るい稜線が見える。あと少しと皆に声をかけ登っていくとタンボ山西側コルの十字峠分岐に出るここからは歩きやすい登山道となり西の行者で休憩、皆、装備やこれからの例会について楽しそうに語っていた。休憩後紀見峠駅に向かう。途中山の神で休憩し紀見峠駅までのんびりと歩く。新年登山は正月なまった体にこたえたか皆さん口々によく歩いたと言っていました。記:小椋(勝) | | | | | | | | |
| 連番 | 1117 | 例会No. | 一般 751 | 内容 | 和泉市・岩雄山、和泉葛城山(575m) | 実施年月日 | 2023/1/15 | 担当者 | 小椋(勝)、前田 |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 中止 | | | | | | | | |
| 連番 | 1118 | 例会No. | 一般 752 | 内容 | 大峰・観音峰 | 実施年月日 | 2023/1/22 | 担当者 | 山倉(康)、小椋(勝) |
| 参加者 | 上野、大森、中野、中村、佐野、谷、原(正)、原(康)、安岡、杉本、前田 | | | | | | 参加者数 | 13 | |
| 担当者コメント | バス又はタクシーで入山予定でしたがマイカー利用者が4台揃い下市口駅で合流分乗し登山口へ向かう、登山口までの道も好天続きでドライ状況、登山口にも積雪は見られませんでした、車中からも稜線付近には積雪は見られません、頂上まで期待していた樹氷も見られないのかもしれませんが9時50分、出発の挨拶を済ませ吊り橋を渡ります、気温が低いので多少凍った道になっていますが積雪はゼロ、11時見晴らしの良い観音平に到着、天気は上々雲一つありません、稲村が岳から山上が岳方面の稜線がくっきりと眺められました、日陰にわずかに残った雪を眺めつつ12時観音峰山到着、この時期に全く積雪がないのも珍しいのではないのでしょうか、せっかくアイゼンを持ってきていますのでなれない方に厚手の手袋をはめてアイゼンの装着練習をしましたが・・・、まづまづの練習を済ませ体も冷えてきたので下山開始、14時登山口へ到着4時間の行動を終了しました。記:山倉 | | | | | | | | |
| 連番 | 1119 | 例会No. | 一般 753 | 内容 | 金剛山 | 実施年月日 | 2023/1/29 | 担当者 | 西村(晶)、杉本 |
| 参加者 | 西向、中村、村木(と)、村木(正)、佐野、駒井、大森、小椋(美)、森本(善)、谷、中原(正)、中原(俊)、木下 | | | | | | 参加者数 | 15 | |
| 担当者コメント | 今季最強の寒波が到来で、今年は霧氷が大いに期待できそうです、黒梅谷の林道に入ると一気に積雪も多くなり、あたり一面雪に覆われて真っ白です、セトから稜線に出ると景色が一変、木々の枝に霧氷の絶景が広がっています、自然が作り出す造形に皆さんの歓声が聴こえてきます。山頂広場の金剛稜も霧氷で真っ白、青空に映えます。雪景色を楽しみながらの昼食もおいしいものです。伏見峠より久留野峠までの景色も雪に覆われており新鮮味あふれる山歩きでした。記:西村(晶) | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|--------|----|-------------------------------|-------|--------------|-----|-------------|----|
| 連番 | 1120 | 例会No. | OP 361 | 内容 | 鈴鹿・御池岳 | 実施年月日 | 2023/2/4~5 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 | |
| 参加者 | 小椋(美) 大森 上野 谷 中村 佐野 村浪 | | | | | | | | 参加者数 | 9 |
| 担当者コメント | 4日 ルーム前に13:00集合し出発、遅い出発なので渋滞にも会わずに泊地高取山ふれあい公園に到着。手続きを済ませ10人用のバンガローへ、中に入れば広くキッチン、お風呂もついて寝るだけなら20人近く泊まれるのでは。その広い部屋でゆっくりと鍋を囲み山の話などに花を咲かせ楽しく語りながら就寝する。5日 快晴だと思って起床すると雨、山は雪だろうと言いながら出発。登山口近くになると幸いにも雨は上がり曇り空、国道306号線は雪で途中までしか車は入れない状況。とりあえず行けるところまで行きそこから登山口の鞍掛橋へ向かう。鞍掛橋から林道に入り10分ほど歩けば送電線巡視路分岐に着く。気を付けないと見過ごすような取り付きだ。そこから急な斜面を上がると巡視路に入り尾根道沿いの登山道を鈴北から延びる稜線へと向かって尾根道を東に登って行く。途中アイゼンを付け思ったよりも時間をかけ稜線に出る。稜線からは快適な登山道だ。鈴北に着くころには青空も見え始める。鈴北から日本庭園を通り快晴の空の下御池岳に向かう途中アイゼンからワカンに付け替えトレーセスから外れて誰も歩いていない雪の中を歩き方の練習をしながら行くが皆さこちない。御池岳に着いて食事を済ませ早々に引き上げる。帰り道は鞍掛峠南の尾根を林道に向かって下山する。駐車場に帰り挨拶を済ませて帰途に就く。今回の山行きはいろいろと反省させられる山行でした。記:小椋(勝) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1121 | 例会No. | 一般 754 | 内容 | ダイヤモンドトレイル~金剛山 | 実施年月日 | 2023/2/5 | 担当者 | 西村(晶)、森本(善) | |
| 参加者 | 安岡、飯尾、西村(美)、前田、森本(聡)、脇 | | | | | | | | 参加者数 | 8 |
| 担当者コメント | 先週に続き今週も金剛山に登ります、今週は気温も高くなっていたので霧氷は期待できませんが残雪の山登りが楽しみです。水越峠登山口より雪が残っており滑らないように慎重に林道を進む。足元が滑りやすくなってきたのでアイゼンを着けて稜線道に出る、樹木の雪は落ちており霧氷は見られないが雪は沢山残っていました。記:西村(晶) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1122 | 例会No. | OP 362 | 内容 | 第19回スキーカーニバル イン北海道・富良野 | 実施年月日 | 2023/2/9~12 | 担当者 | 西村(晶) | |
| 参加者 | 村木(と)、片山、木下、脇本、西村(美)、他1名 | | | | | | | | 参加者数 | 7 |
| 担当者コメント | 北海道 富良野スキー場には今回で六度目です。ゲレンデは広いので辺りを気にせずに滑れます、コースも初級から中級コースが多滑降距離もたっぷりあり、粉雪の舞う雄大なゲレンデを楽しく滑ることが出来ました。ホテルのドアを開けるとそこは粉雪のゲレンデが広がります。ロープウェイ頂上駅より大雪連山を眺めながら豪快に滑降を楽しみました。記:西村(晶) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1123 | 例会No. | 一般 755 | 内容 | (ベーシック登山No.70) 二上山 | 実施年月日 | 2023/2/12 | 担当者 | 森本(善)、山倉(康) | |
| 参加者 | 中村・有永・谷・原(康)・中原(正)・安岡・秋田・上野・駒井・安本(嘉)・西向・安本(昭)・大森 | | | | | | | | 参加者数 | 15 |
| 担当者コメント | 晴れの中、太子町スポーツ公園から登山開始(9:40)。15分程で鈍鶴峰から二上山へのダイヤモンドトレイルに合流する。この頃より汗ばみだし2月とは思えない温かさに防寒着を次々と脱ぎだし、汗を拭いながらの登山です。途中、明石大橋や大阪湾、淡路島を望められる尾根上(10:20)に出ましたが、2月なのに春がすみ?のためか望むことは出来ませんでした。しばらく登り、竹ノ内峠側からの登山道と合流。その後馬の背にて休憩し、遠くあべのハルカスや大阪市内、六甲山を見つけ楽しい休憩時間を過ごしました。約10分で雌岳頂上着(11:08)。頂上からは大阪側や奈良側を望むことができ、春がすみの中、奈良盆地越しに遠く大峯や吉野の峰々があり、眼下に畝傍山(大和三山)を見つけ、指さしながら昼食後の歓談時間を過ごしました。頂上で30分ほど過ごし馬の背から奈良県側に下山開始(12:15)。途中杉木立の中に堂々とそびえるおおきな銀杏の木や裕泉寺では秋の紅葉の美しかった情景を語りあいながら竹林の中、のんびりと竹穂垣沿いに、そして沢沿いを下り、當麻山口神社を過ぎ當麻寺界隈を歩き12:50頃當麻寺着。ここで地元当麻町出身の会員から幼少時の當麻寺の様子を聞きました。(ちなみにEPEメンバーのすぐ後ろには何気なく「日本最古の梵鐘国宝白鳳時代680年代に鑄造された梵鐘」が鐘樓に吊るされていました)そして全員で記念写真を写して解散し當麻寺参道を當麻寺駅まで春の気分でのんびり歩きました。記:森本(善) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1124 | 例会No. | OP 363 | 内容 | 播州赤穂、亀甲山・百間岳 プラスアルファNo.29牡蠣料理 | 実施年月日 | 2023/2/18~19 | 担当者 | 杉本、小椋(勝) | |
| 参加者 | 村木(正)、村木(と)、小椋(美)、大森、佐野、安岡、谷、三原 | | | | | | | | 参加者数 | 10 |
| 担当者コメント | 2月18日 曇り時々雨 JR坂越駅の改札口を出ると目の前にこれから上る茶臼山が左手に、亀甲山が右手に望まれる。大避神社の鳥居をくぐると宝珠山への登山口となり里山らしく急な登りが始まる。石仏巡礼コースの標識に導かれ歩いていくとあちこちに小さな石仏が置かれ楽しみながら登ることができました。宝珠山や大谷山などアップダウンを繰り返しながら「みかんのへた山」に「みかんのへた山古墳」という変わった名のついた古墳を通り小島登山口に降り立つ。海岸線を一旦坂越の街中に戻り八祖山を目指す。登山口付近は崩落の跡があるが上に上れば登山道があることが分かったので見当をつけて登る。登山道に出ると立派な標識がある。八祖山は向山までの稜線上の一番東の端で山頂は平たんで山名板がない。向山までの稜線上には小さなピークながらもアップダウンが続く。今日の最後のピーク向山からは北は赤穂の街並みや赤穂城、南は瀬戸内の小島、足元には赤穂ハイツが見える。赤穂ハイツ近道の標識があったので下ってみるとササが生い茂り歩きづらい。16時過ぎに赤穂ハイツに到着。風呂で山の疲れをとり3年越しの牡蠣料理に舌鼓を打つ。2月19日 雨のち曇り 今日は朝から雨。ルート黒鉄山から百間岳往復に変更する。登山口は新幹線の横で獣除けの柵から林道を歩くと鳥居が現れ、そこから登山道になっている。登り始めるとイノシシに登山道が掘り起こされおまけに岩がゴロゴロ転がっていて歩きにくい。黒鉄山には三角点がありここから先が粘土質の道と1mを超えるシダに覆われ難渋する。2時間で開けた百間岳の山頂に出る。百間岳は地図によっては百間岳と表記されているものもあり、山頂には「百間岳」の標識が付けられている。どちらが正しいのか疑問符が付く。ガスっていて展望がきかないので写真を撮ると早々と帰路に就く。元来た登山口で着替えを済ませてJR赤穂駅までタクシーに乗り解散とする。記:杉本 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1125 | 例会No. | 一般 756 | 内容 | 金剛山 | 実施年月日 | 2023/2/19 | 担当者 | 前田、秋田 | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|--------|----|-------------------------|-------|--------------|-----|---------------|----|
| 連番 | 1126 | 例会No. | OP 364 | 内容 | 比良 武奈ヶ岳 | 実施年月日 | 2023/2/25~26 | 担当者 | 山倉(康)、前田 | |
| 参加者 | 安岡 谷 上野 大森 中野 佐野 中村 中原(正) 小椋(美) 村浪 | | | | | | | | 参加者数 | 12 |
| 担当者コメント | <p>2月25日(土) 昼過ぎに難波に集合し車3台に分乗後坊村の登山口へ向かう、明日の行動を早くしたいので前夜泊としました、16時テント設営し夕食としました。 2月26日(日) 4時ころ除雪車の轟音に目を覚ます、夜中に15センチくらいの新雪があったようで早朝に除雪作業に出たようです、各自朝食を済ませテント撤収、6時50分駐車場を後にしました、早い時間に出発できたので今日はゆっくり登れそうです、雪はちらほらと降っていますがまずまずの天気です、昨夜来の雪で登山口から雪を踏んでの登山になります、御殿山へ続く尾根まで急な登りが続きます、西風が結構強く風よけにフードをかぶってしまいます、早朝からの先行パーティーも多くトレースははっきり踏みしめられており順調に高度を稼ぎ8時30分御殿山へ続く尾根上へ出ました、ここでアイゼンを装着し、まずは御殿山へ10時着、西南稜から武奈ヶ岳がはっきり望めます、ここから一旦ワサビ峠に下り西南稜の登りが始まります、西風が依然強く結構雪庇が発達していました、後ろから多くの登山者が追い越してゆき、前からも下山者が早々に降りてきますので道を開けるのにしばし立ち止まらなければならぬ状況が続きます、10時20分頃西南稜への登り開始、樹林帯を抜けたので風がきつく感じられます、時々地吹雪で多少視界が悪いが琵琶湖も見られます、11時20分頂上着、風を避けて休憩したいので、集合写真を撮り早々に下山開始、ワサビ峠で休憩としました、御殿山への登り返しを終わりは下りのみで時間も早いのでゆっくり下りました、14時30分登山口着、15時駐車場で解散としました、久しぶりの雪山で天気も大崩れすることなく楽しめたのではないかと思います、ありがとうございます。記:山倉(康)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1127 | 例会No. | 一般 757 | 内容 | 北摂・小塩山~ポンボン山 | 実施年月日 | 2023/2/26 | 担当者 | 野原、杉本 | |
| 参加者 | 安本(嘉)、安本(昭)、北山、黒澤 | | | | | | | | 参加者数 | 6 |
| 担当者コメント | <p>昨年5月の歌垣山例会に続き、集合時間になっても誰も現れない。事前連絡のあった2名がいなければ改札に入ることなく「中止」とするところでしたが、東向日駅に着くと事前連絡の2名を含め4名が待っていました。南春日町バス停から住宅街の中を歩き始める。途中数か所分岐があるが、登山口の表示はない。獣害防止扉を開けて、最初は竹林、その後は樹林帯の中を一路小塩山に向け歩を進める。小塩山頂上は「淳和(じゅんな)天皇陵」の中にあるため入れず、すぐ横に頂上標識がありました。因みに、第53代の淳和天皇(786年~840年)は歴代天皇の中で唯一遺言により火葬され、遺骨は大原野西嶺(現在の小塩山)に散骨。陵墓も遺言により石を積み上げただけの簡素な円墳だったが、後年(約千年後、幕末~明治)に現在の陵墓に修復されたとのこと。またこの陵墓は参拝しにくい場所の最上位に挙げられるそうで、今回歩いて実感しました。昼食は大原野森林公園内の「森の案内所」で摂る。この施設は休憩施設を兼ねていて、中は暖炉が備え付けられ心地よい暖かさにあふれ、ゆったりとしたひと時を過ごせました。ポンボン山へは西尾根コースを辿り頂上到着。頂上には2グループが休憩していました。その時の気温は0度。しばらく休憩した後、本山寺経由神峰山口バス停を目指し。嫌になるほど長い舗装路を下山。体の芯から冷える寒さの中、参加メンバーの皆様お疲れ様でした。【担当リーダーの独り言】集合時間に誰も現れなければ、改札に入ることも無く「例会中止」とします。集合場所以外の場所(改札内、電車内含む)で合流する場合は、必ず担当リーダーに連絡(メール、ライン、電話等)、若しくは参加するメンバーに伝言を入れてください。連絡無しで集合場所以外の場所で待っていて、誰も現れなければ残念ですよね。その思いは担当リーダーも同じです。記:野原</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1128 | 例会No. | 一般 758 | 内容 | 河内長野・千早古道 郷土巡りシリーズ No.3 | 実施年月日 | 2023/3/5 | 担当者 | 紀伊塾本(節)、小椋(勝) | |
| 参加者 | 神阪、森本(咲)、森本(善)、山倉(康)、山倉(知)、中村、原(康)、大森、小椋(美)、河合(幸)、木下、佐野、岩本、喜多田、中川、砂山、實緑、和田(敬)、石上、駒井、秋田、飛田 | | | | | | | | 参加者数 | 24 |
| 担当者コメント | <p>「鳩の原」のバス停でEPE一行24名が降りた。残る乗客を乗せた金剛行のバスは気の毒なほど効率が悪い。千早赤坂村は大阪府に残る唯一の村です。過疎地としての指定も受けているそうだが、道路沿いの家屋は大きく裕福である。観光資源は金剛山と楠木正成、しかし今はそのいずれもが歪化しているようだ。夜明け前の元旦、千早城に上る階段には提灯を手にした村人が続々と列らなっていた。松明に照らされた境内では搦きたての餅がふんだんに振る舞われている。たまたま紛れ込んだ高校生の私は、よそ者ながら密かに満腹したのである。戦後間もない食料難の頃、楠木さんはまだそれほど敬虔な存在であった。村営の金剛ロープウェイは経営不振で譲渡先も無いまま、いよいよ撤去されるそうである。一方で山頂への道は何拾、何百回と繰り返し登る金剛登山に熱中している人達もいる。時は流れる水の如し、千早城への階段をあえぎ喘ぎ登る私が今更、何を嘯かである。記:紀伊塾本(節)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1129 | 例会No. | 一般 759 | 内容 | 猿子城山 | 実施年月日 | 2023/3/12 | 担当者 | 西村(晶)、山倉(康) | |
| 参加者 | 前田、中村、佐野、駒井、大森、小椋(美)、上野、谷、岩本、松本、飛田 | | | | | | | | 参加者数 | 13 |
| 担当者コメント | <p>滝畑集落より登山口の階段を登り竹林の小道を進むと、木々の生い茂った山の中に入って行く 滝畑ダム周辺の山々は登山口より少し歩くと自然が豊かな山歩きが楽しめます。ボテ峠より急斜面が続く尾根を登ると猿子城山の頂上、南北朝時代に楠木氏の城塞跡で四方懸崖で滝畑の要害の本丸跡である。静かな上山山頂で昼食後は不明瞭な踏み跡を探しながら光滝寺に下る。記:西村(晶)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1130 | 例会No. | OP 365 | 内容 | 白山山系・薙刀山 | 実施年月日 | 2023/3/18~20 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 | |
| 参加者 | 大森 安岡 上野 小椋(美) 西野 | | | | | | | | 参加者数 | 7 |
| 担当者コメント | <p>18日 朝から雨模様の中、出発する。昼からは上がっていくとの天気予報。白山中居神社に12時に着く予定なので昼までには雨が止むだろうと思いつつ車を走らせる。標高の高いところでは山は雪模様とのことなので、心配していたが雪の影響も無く予定通り目的地白山中居神社の駐車場に着く。駐車場に入ると西野君が先着していて笑顔で迎えてくれた。積もる話もあるが時間もないので急いで支度をし、出発する。雪のつづら折りの林道歩きは踏み抜くことが多く歩きづらい。途中ショートカットで尾根道に入るがこの時期の山道は踏み抜くことが多く足元を気にしながら歩き泊地和田牧場に到着する。 早々にテントを張り夕食を食べ就寝する。</p> | | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|--------|----|-----------------------------|-------|-----------|-----|-------------|--|
| 担当者コメント | 19日 朝起きると快晴、野伏ヶ岳が朝日に照らされ黄金色に輝いていた。山脈の北には薙刀が見える。二つの峰を見ながらルートを確認する。あの山を登って行くのかと思うとわくわくして来る。挨拶を済ませ歩き始める。和田牧場は広く起伏は10mぐらいの丘陵が重なり読図が難しい。ただどこを通っても薙刀山南東尾根にはたどり着く。広い牧場跡を歩いていくと蛇行した小川が行く道をふさぐ。渡渉できないので渡れるところを探し先に進む。推高谷に差し掛かると高低差がありロープを出し下降する。谷を越え薙刀山南部の尾根に登るとなだらかな尾根に着く。薙刀から野伏、御嶽と一目で見わたすことができ一休みする。そこから薙刀南部の稜線へ雪庇の間を抜け出る。薙刀山頂上から見る白山は白く神々しい姿で我々を迎えてくれた。山頂からの名残惜しい景色を後にして野伏ヶ岳へと向かう。野伏北方稜線は牛の背のように広く少し傾斜もあるが歩きやすい。途中クラックに気を付けながら野伏山頂に立つ。一休みしシャーベット状の雪の尾根を下山する。泊地に戻りテントを撤収し駐車場に向かう。下山後カルピラ石徹白で一泊し翌日帰途についた。記:小椋(勝) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1131 | 例会No. | 一般 760 | 内容 | 和泉山脈・お菊山 | 実施年月日 | 2023/3/19 | 担当者 | 前田、秋田 | |
| 参加者 | 中村、中原(正)、谷、和田、中川、安田、大岡、森本、中野、喜多田、中原(俊) | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 13 | | | | | | | | | |
| 担当者コメント | 長滝駅から集落の中を歩く。意賀美神社を過ぎて阪和道をくぐると新滝の池に出た。この辺の山桜は満開だった。登山口からは急坂の登りが続いた。木々の向こうに泉南の町や関空が見えてきた。大山に着いたが展望がきかない。ここからは緩やかな縦走路が続いた。殿尾山も展望がきかないので、その先の鉄塔の下で昼食をとった。ここからは淡路島や六甲山、関空がよく見えて絶景である。さらに縦走路を行くとお菊山に着いた。大阪夏の陣で亡くなった豊臣秀次の娘、お菊の石碑が有った。歴史を感じさせてくれる。そこから下ると蓮花寺に出た。物凄い急な坂道を下ると金熊寺の里に下山した。残念ながら寺の梅林はすべて散っていた。近くのバス停で解散。お菊山はアプローチが長い、気軽に登れて展望が楽しめる山だった。記:前田 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1132 | 例会No. | 一般 761 | 内容 | 蓬莱峡～六甲山 | 実施年月日 | 2023/3/26 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) | |
| 参加者 | | | | | | | | | | |
| 参加者数 | | | | | | | | | | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1133 | 例会No. | 一般 762 | 内容 | 天見富士・旗尾山 | 実施年月日 | 2023/4/2 | 担当者 | 前田、西村(晶) | |
| 参加者 | 谷、西村(美)、砂山、石上、大森、實操、木下、中村、中原(正)、中原(俊)、上野、喜多田、黒澤、佐野、安岡、安本(昭)、安本(嘉)、森本(善) | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 20 | | | | | | | | | |
| 担当者コメント | 今回は旗尾山の姿を見る為、千早口駅から西側の山へ登った。駅から国道を渡りふるさと農道のトンネル入口手前より登山道に入った。ジルミ峠から尾根道になり、学文峰あたりから満開の三つ葉ツツジのトンネルになり、これを見ると春が来たなあと思う。井谷ノ峰へ行く途中、道がわからなくなり、スマホの地図を見た。すると皆スマホを見て調べている。地図とコンパスを使っている人はない。本来紙地図は見るのが楽しいし、冒険的な感じがあり、迷った時は緊張感もある。スマホにはない。何でもスマホに頼っていると楽だが、そのうちにえらい目に合うかもしれない。井谷ノ峰で昼食を取り、急坂を下ると天見駅に出た。駅から菊水台を過ぎて、旗尾山の登りは落ち葉の積もった急登で、山頂からの下りも急であった。そこから遊歩道に出て、千早口駅へ向かった。旗尾山の姿は富士山に似てなかったが、登り下りが急で富士山のようにであった。今年の夏は富士山目指して頑張るぞ「オー」と心に誓って帰路についた。記:前田 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1134 | 例会No. | 一般 763 | 内容 | (ベーシック登山No.71)飛鳥石舞台～多武峰談山神社 | 実施年月日 | 2023/4/9 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) | |
| 参加者 | 西村(晶) 西村(美) 三原 岩本 西向 | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 7 | | | | | | | | | |
| 担当者コメント | 阿倍野橋発の近鉄電車内は結構込み合っています、吉野山へなごりの桜見物に向かう人たちでしょうか、飛鳥駅で降りると案内行客が少ないでした、8時40分挨拶を済ませずには石舞台に向けのんびりと歩きます。10時石舞台着、露出した石室は30個の岩で総重量が2300tあるそうです、当時の土木技術がどの程度のものか想像もできません、ここから林道の登りが始まり、途中から杉林の急登になり11時万葉展望台で急登は終わります、展望台からは大和平野とその向こうに金剛、葛城、二上山の山並みが春霞の向こうに連なっています、ここから先は細い林道状のハイキング道を緩やかに登ってゆきます、途中には古い石像や石仏が多く見られます、12時30分頃には御破裂山(ごはれつさん)に到着、ここは藤原鎌足公の墓所だそうです、談山神社に下る途中、談山(かたらいやま)によりました、入口の看板には(大化の改新相談所)と書かれています、まるで市役所か何かの相談所のような、一応ここで昼食休憩しました、飛鳥時代、中臣鎌足(後の藤原鎌足)と中大兄皇子はこの地で大化の改新を話し、飛鳥板蓋宮でクーデターを実行して蘇我氏を滅ぼし大化の改新を成し遂げたと伝えられていますが真相はわかりません、休憩後15分ほど下ると今日の目的地談山神社に着きました、秋の紅葉時には素敵な景色になります、一度訪れてみてはどうでしょうか、14時バス停に到着し本日の山行を終了しました、ありがとうございました。記:山倉(康) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1135 | 例会No. | OP 366 | 内容 | 鈴鹿・天狗堂、サンヤリ | 実施年月日 | 2023/4/9 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 | |
| 参加者 | 上野 小椋(美) 大森 駒井 佐野 谷 村木(と) 原(正) 原(康) 中村 安岡 | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 13 | | | | | | | | | |
| 担当者コメント | 気が付けば鈴鹿10座 鈴鹿シリーズを登ってきて振り返ってみると鈴鹿10座に残すは天狗堂だけと気が付き企画しました。車に分乗し君ヶ畑の天狗堂登山観光駐車場に駐車し君ヶ畑の歴史を少し話し大皇器地祖神社脇の登山道から天狗堂に向かう。足場の悪い場所を少しショートカットし登山道に出て宮坂峠に着く、宮坂峠から北東に延びる稜線に入りP728で休憩する。そこから見る天狗堂は急峻で天狗というイメージにぴったりだ！休憩場所から少し歩き急峻な登山道を登ると途中イワウチワの群性があり疲れを忘れさせてくれる。息を切らし登ると思いのほか早く山頂へ着く、山頂で思い思いに腰を下ろし昼食をとる。昼食後サンヤリへと向かう。天狗堂からは急坂だ。急坂を下り振り返ると帰りの登りが思いやられる。後はサンヤリへの稜線は快適だ。3,40分ほど歩くとサンヤリに着くサンヤリで休憩し、登って来た登山道を引き返し下山する。帰りはあんなに息を切らし登って来た道があつという間に降りることができた。下山後解散し帰途に就きました。記:小椋(勝) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1136 | 例会No. | 一般 764 | 内容 | 大和葛城山 | 実施年月日 | 2023/4/15 | 担当者 | 西村(晶)、秋田 | |
| 参加者 | | | | | | | | | | |
| 参加者数 | | | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|--------|----|-----------------------|-------|--------------|-----|-------------|----|
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1137 | 例会No. | 一般 765 | 内容 | 紀州雑賀の里へ 郷土巡りシリーズ NO.4 | 実施年月日 | 2023/4/16 | 担当者 | 小椋(勝) | |
| 参加者 | 大森 佐野 砂山 村木(正) 村木(と) 祓川 小椋(美) 渡辺 堀 森本(善) 中嶋 上野 喜多田 谷 中村 | | | | | | | | 参加者数 | 16 |
| 担当者コメント | <p>前日 昼のテレビニュースを見ようとスイッチを入れると速報で岸田首相を狙ったテロのニュースが流れていました。それも雑賀崎漁港、明日行くところではないか、行けるのかな、大丈夫かなと頭をよぎりましたが取りあえず行こう！と言うことで南海和歌山市駅からバスに乗り和歌浦口へ、バスの車窓から見る紀州徳川家55万5千石の壮大なお城と城下町はこれから向かう雑賀の里に期待をよせさせられる。和歌浦口で下車し東照宮へ、侍坂と言われる急こう配の石段を上ると目の前に威風堂々とした権現造りの朱塗りの社殿が現れる。参拝客も多い中、少しの間見学し参拝をすませ章魚頭姿山(たこずしやま)へ向かう、和歌浦小学校よりバス通りを少し北に戻り潮騒の小道へ入り権現山、天神山を通り章魚頭姿山へ。山頂で昼食の後、雑賀一族の末裔でもある会員のN氏(土橋氏系)に雑賀の歴史を語ってもらう。雑賀一族の話や一向一揆、門徒の話など知らない話も多く興味が尽きることはない。下山後、和歌山のアマルフィエと呼ばれる港町を通り抜け雑賀崎の番所の鼻公園へ行く。岬の先端に立ち潮風を感じ潮騒の音を聞きながらゆっくりと時間が流れる中景勝地を堪能した。近くに幕末や戦争中砲台があったことや昨日の事件など無縁の平和な時間を過ごし帰途へと着きました。記:小椋(勝)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1138 | 例会No. | 一般 766 | 内容 | 交野山 | 実施年月日 | 2023/4/23 | 担当者 | 山倉(康)、杉本 | |
| 参加者 | 谷 前田 渡辺 原(正) 原(康) 山田 山崎 北山 黒澤 西村(美) 上野 松本(明) 中野 安本(昭) 石上 安本(嘉) 保木 安岡 中川 村木(と) 西向 大森 森本(善) 佐野 中嶋 岩本 山倉(知) 西村(晶) 堀 | | | | | | | | 参加者数 | 31 |
| 担当者コメント | <p>私市駅に8時46分着の電車から降りると駅前は大変な人出です、全部EPEメンバーでちょっとビビりますが初めての方もおられるので自己紹介とあいさつを済ませ9時出発、31名のパーティーは今年の新年登山を上回っていました、住宅地を迷いながらも獅子窟寺への登り口からコンクリートの参道を約30分で獅子窟寺着、ここは1300年の歴史があるそうで、薬師如来像が国宝に指定されているそうです、お寺の横からくろんど園地へ急登が始まります、巨岩の間の道はなかなか変化に富んでいます、くろんど園地のキャンプ場で一休みし園地内の園路に出て交野山入口を探して進むとハイカーが増えてきました、子どもたちの集団から元気な挨拶が飛び交ってきます、園路から登山道へ入り山越えて交野山へ登り返します、ここは結構きつい登りです、12時ごろ交野山到着、山頂の岩の上からは左から時計回りに、生駒山、あべのハルカス、大阪市内のビル群、はるかかなたには霞んでいますが淡路島方面、六甲山、さらに右には摂津の山々から天王山、京都市内から比叡山方向まで見渡せませ、登山者が多いのはこういった環境だからでしょう、昼食休憩を済ませ国見山へ12時30分出発、13時15分国見山着、頂上にはこいのぼりが勢よく泳いでいました、記念写真を撮って一気にIR津田駅目指して下り、14時過ぎJR津田駅着、今日は交野市側から枚方市側へ縦走した形で、登りは比較的緩やかで枚方市側の下りは結構急こう配で、逆コースはかきついついと思いました、天気も最高で、たくさんの方が参加していただきありがとうございました。記:山倉</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1139 | 例会No. | OP 367 | 内容 | 台高・山ノ神ノ頭へ馬ノ鞍峰 | 実施年月日 | 2023/4/29~30 | 担当者 | 杉本、小椋(勝) | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1140 | 例会No. | 一般 767 | 内容 | 金剛山・ニリンソウ | 実施年月日 | 2023/4/30 | 担当者 | 西村(晶)、森本(善) | |
| 参加者 | 中村、佐野、大森、小椋(美)、上野、谷、安岡 | | | | | | | | 参加者数 | 9 |
| 担当者コメント | <p>雨上がりの白いもやに覆われた木立ちの中でニリンソウの花が咲き乱れていました。昨年の例会では来る時期が遅く、白い花が少しだけ残っていましたが、今年は満開です。登山道の両側一面に可憐な白い花のお花畑が続きます。花の開花時期に例会を合わせるの難しいですね。昨年に咲いていたヤマシャクヤクを探しましたが、開花は少し先ようです。八重桜が満開の国見城跡で昼食、久留野峠よりロープウェイバス停まで新緑の山道を歩きました。記:西村(晶)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1141 | 例会No. | 一般 768 | 内容 | 金剛山・ヤマシャクヤク | 実施年月日 | 2023/5/7 | 担当者 | 西村(晶)、前田 | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1142 | 例会No. | OP 368 | 内容 | 屋久島・宮之浦岳 | 実施年月日 | 2023/5/12~16 | 担当者 | 小椋(勝)、山倉(康) | |
| 参加者 | 大森 佐野 村木(正) 西向 中川 駒井 原(康) 中原(正) 中原(俊) 山倉(知) 渡辺 小椋(美) | | | | | | | | 参加者数 | 14 |
| 担当者コメント | <p>13日 天気予報通り朝から雨。縦走組も予定を変え14日に全員で宮之浦岳往復に変更し、この日は島内観光。タクシーで白谷雲水峡駐車場へ。そこから太鼓岩往復コースで苔むす森へ向かう。途中屋久島の澄み切った谷と森の中をマイナスイオンに浸りながら歩く。もののけ姫のイメージとなった苔むす森は何とも幻想的な風景で心を癒してくれる。下山後は滝めぐり、車で大川の滝、千尋の滝を見学し泊地へもどる。14日 早朝5時にタクシー会社の中型バスに迎えに来てもらい出発。曲がりくねった安房林道をバスは高度を稼ぎながらエンジン音を響かせ走っていく。眠い目を開けるとAM6:00。そろそろ淀川登山口に着くころだ。淀川登山口で支度をして歩き始める。小一時間ほどで淀川小屋に着く。少し休憩し花之江河、黒味別れ、投げ石平を過ぎ栗生岳を超えると宮之浦岳に着く。ここまでの道は屋久島と云う島の中と思えない、まさに洋上のアルプスだ。宮之浦岳山頂は登山者が多く早々に引き上げる。下山道は登ってきたときは、あまり感じなかったが長い。栗生岳、投げ石平を過ぎやっつとで花之江河に着く。花之江河、投げ石平は景観がよく休憩するには絶好の場所だ。ここで休憩し淀川小屋まで下山する。淀川小屋は早朝とは違い多くの登山客でにぎわっていた。淀川小屋から登山口までゆっくり下山し帰路に就く。</p> | | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|--------|----|--------------------------------------|-------|-----------|-----|-------------|----|
| 担当者コメント | <p>15日 今日も快晴 当初の予定を変更し太忠岳へ。屋久島の移動はどこに行くにしても車が必要だ。早朝にタクシーに迎えに来てもらい屋久杉ランドに向かう。まだ早いせいか、平日か？あまり観光客は見えない。屋久杉ランドで受付を済ませ遊歩道を歩き始める。途中1000年杉を見学し歩道を歩いていくと四阿が現れる。ここからは遊歩道から外れ世界遺産の中の登山道になっていく。宮之浦岳への登山道もそうだが、ここも本州とは違う澄み切った水に深い森、熱帯から亜寒帯に属する多様な植物が覆い茂っているせいなのだろうか独特の雰囲気がある。その登山道をマイナスイオンに浸りながら少し歩くと天文の森に着く。少し休み山頂へと向かう。高度が上がるにつれ花崗岩の巨岩が現れ始める。巨岩を巻きながらしばらく歩くと山頂に着く。そこには高さ50mの天柱石が現れる。横に広いテラスがありそこにロープを伝って上がる。山頂もそうだがあまり人はいない、私たちパーティーだけでテラスからの景色を楽しむ、直下の安房の町から遠くは種子島まで望むことができた。しばらく素晴らしい景色を堪能し登山道を戻り帰途に着く。16日 最終日 私自身楽しみにしていたカヤックツアーだ。インストラクターから装備、パドルの扱いなどの説明を受け各々色鮮やかなカヤックに乗り込む最初は慣れない手つきであちこちに進んでいたが暫く立つと思いいかにカヤックを扱い上流へと向かう。安房川は澄って青い空の下カラフルなカヤックが浮かぶ最高のロケーションだ。途中、中州に上陸しインストラクターから屋久島の説明を聞く。そこから少し上流に行き時間がないので引き返す。まだまだ先に行きたいが仕方がない。上陸後 宿に帰りタクシーを待つ。最後にお世話になった水明荘のおかみさんと記念写真を撮影帰阪の途に就いた。私自身仕事に追われる毎日で休みもなかなか取れない中4泊5日という長い休みを取り行った屋久島はいろんな意味でよい体験をさせてくれました。機会があれば、いや、作りもう一度行き屋久島の山と川を堪能したいと思います。 記：小椋(勝)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1143 | 例会No. | 一般 769 | 内容 | 播磨富士・高御位山 | 実施年月日 | 2023/5/14 | 担当者 | 前田、野原 | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 雨天中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1144 | 例会No. | 一般 770 | 内容 | 淡路富士・先山 | 実施年月日 | 2023/5/28 | 担当者 | 森本(善)、山倉(康) | |
| 参加者 | 喜多田・谷・中村・中野・和田(敬)・中川・大岡・實繰・村木(と)・大森・中嶋・佐野・萩川・安岡・砂山・山倉(知)・保木・森本(咲)・杉本・西村(晶) | | | | | | | | 参加者数 | 22 |
| 担当者コメント | <p>7時30分 難波南都銀行前にて集合。6台の私用車に分乗し一路先山に向け出発しました。途中、通行止めの阪神高速神戸線を避け、山陽道周りで明石大橋を渡り8時30分明石大橋のサービスエリアにて合流休憩する。天気も良く、これからの楽しい山行等に期待を膨らませる。9:30頃、洲本市上内膳にある蓮光寺に到着し住職さんの心遣いにより6台分の車を駐車させていただく。ここからは先山を左手に見ながら上内膳を歩き、途中左折し先山正面に向け登ります。しばらくすると淡路高速を跨ぐ陸橋を渡り淡路島らしい里山の麓の玉苗木畑のなかを登山口に向けゆっくと歩く。約20分程で下内膳からの登山道と合流し町石の石柱を数え乍ら先山参道を登る。全部で十八丁のこの登山道(参道)は先山頂上にある901年創建と云われる古刹の千光寺(淡路三十三国霊場一番札所 花の札所)への参道であり、時折瀬戸内の海や里山を眺めながら綺麗に整備されている登山道を潮風に吹かれながら登る。途中頂上近くにある天岩戸神社を訪れる。登山道から逸れ薄暗い森の中を下ると天岩戸と伝わる大岩が現れ、一緒に祀られている岩戸神社を見学後、往路を引き返し頂上に向かう。先山は千光寺境内が頂上であり境内からの眺めは素晴らしく、しばし洲本八景に数えられている淡路島の空と海、そして山々を眺めながら昼食と記念写真を撮る。(12:30)時折り涼やかな風を受けながら同ルートのをのんびり下り、13:30蓮光寺着 その後6台の車は淡路島を縦断し西海岸の都志から晴れた淡路島西海岸の波うち際を、真っ赤なボルシエと共に快適にドライブする。途中、郡家を過ぎ海岸沿いのオープンテラスのある喫茶店に寄り、波打ち際にあるテラス越しから真っ青な瀬戸内海をまじかに観ながら休憩する。14:00ここで解散し6台の車とギャルは各々大阪に向け明石大橋を再度わたり帰阪しました。大橋あり、山あり、歴史深い古刹あり、海あり、ドライブあり、そしておしゃれな喫茶店ありの楽しい若返り山行でした。 記：森本(善)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1145 | 例会No. | 一般 771 | 内容 | (ベーシック登山No.72) 北摂・天王山 & サントリー山崎蒸溜所見学 | 実施年月日 | 2023/6/4 | 担当者 | 野原、前田 | |
| 参加者 | 駒井、喜多田、石上、砂山、中嶋、西向、中川、渡辺、堀、保木 | | | | | | | | 参加者数 | 12 |
| 担当者コメント | <p>当初予定していた「サントリー山崎蒸溜所」が工事のため突然の見学休止。そこで対案として「サントリー京都ビール工場」見学に変更しました。今回の天王山～十方山は2011年3月に実施されたものと同一で私にとって因縁のコース。長期に亘って泉州山岳会を離れていた私に秋田さんから突然電話があり、私を鍛えてくれた泉州山岳会への恩返しのためEPEクラブに加入するきっかけとなった例会です。山崎駅から天王山へは宝積寺を経て天王山へ上るコース。代わり映えないが他に適当なコースがない。天王山まで休憩を多くとるが1時間程度で到着。早すぎるので、まったく予定になかった「サントリー山」にも立ち寄る。初めて登ったが道もしっかりしていて歩きやすい。その後も広くて踏み固められた平坦な登山道が続く。小倉山を経て、十方山で昼食休憩。十方山からは竹林の登山道を下り名神高速道路を眼下にみる遊歩道に飛び出す。遊歩道を経て「水無瀬の滝」で休憩。13年振りの再訪だが、市街地のすぐ側にある近所の人にとっては最適の散歩コースと思われる。山崎駅から一駅隣の長岡京駅で下車。工場行き送迎バスまでの時間を利用して長岡天満宮を参拝する。ビール工場の見学では、工程毎に説明があり素材(水、麦芽、ホップ)選びから仕込み、発酵、熟成、ろ過、缶などへの封入等が良く分かりました。その後お待ちかねの試飲タイム。1杯目がプレミアムモルツ、その次に小グラスに入れた3種類のプレミアムモルツの飲み比べ、最後に一番気に入ったビールを飲むという贅沢なものでした。【担当リーダーからメンバーへのお願い】今回下山した車で参加者の1人が行方不明となる事案が発生。結果的には担当リーダーだけでなく他のメンバーにも声掛けせず例会を途中で離脱したというものでした。本人の携帯へメンバーから何度も連絡するも繋がらず、本人からも連絡無し。判明するまでの2時間近く残ったメンバー全員が気をもみました。これが山中で発生すれば捜索活動、警察への捜索依頼に発展します。下界であっても何か事故に巻き込まれたのではと心配します。絶対に解散するまでは勝手な行動を控えるようにお願いします。記：野原</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1146 | 例会No. | OP 369 | 内容 | 玉置山 歴史探訪シリーズNo.51 | 実施年月日 | 2023/6/4 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 | |
| 参加者 | | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者コメント | 通行止中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1147 | 例会No. | 一般 772 | 内容 | 丹波富士・牛松山 ふるさと富士を巡るシリーズNo.5 | 実施年月日 | 2023/6/11 | 担当者 | 森本(善)、山倉(康) | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | |
|------|---|-------|--------|----|--|-------|--------------|------|-------------------|
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者 | 雨天中止 | | | | | | | | |
| コメント | | | | | | | | | |
| 連番 | 1148 | 例会No. | 一般 773 | 内容 | 金剛山・イナモリソウ | 実施年月日 | 2023/6/18 | 担当者 | 西村(晶)、森本(善) |
| 参加者 | 佐野、大森、安岡、喜多田、石上、砂山、村木(と)、山倉(康)、中野、原(康)、中原(正)、中原(俊)、前田、山田、飛田、峯岡、有永 | | | | | | | 参加者数 | 19 |
| 担当者 | コメント パパ谷に入っすぐ咲いていました、淡い紫色の小さな花が足元に沢山咲いていました。昨年は少し早くつぼみの状態でしたが、今年は満開です、谷筋を登っていても沢山咲いていました。標高940mの尾根道に出る所まで咲いており、開花時期にうまく山行を合わせる事が出来ました。記録:西村(晶) | | | | | | | | |
| 連番 | 1149 | 例会No. | 一般 774 | 内容 | 創立20周年記念山行・ふるさと富士を巡るシリーズNo.6 丹後富士・由良ヶ岳 | 実施年月日 | 2023/6/25 | 担当者 | 野原、小椋(勝) |
| 参加者 | 山倉(康)、大森、佐野、中野、岩本、森本(善) | | | | | | | 参加者数 | 8 |
| 担当者 | コメント 森鷗外の「山椒大夫」を読んだ方はおられるでしょうか。私も小学生の頃に読んで深く記憶に残った小説です。遠い国に左遷され消息不明となった父を探しに出た母と安寿と厨子王の姉弟が旅の途中で人買いにさらわれ、母親は佐渡に、姉と弟は丹後由良の長者山椒大夫に売られ酷使される。将来を悲観した姉の安寿は弟の厨子王を逃した後、入水自殺。京都に逃れた厨子王は出世して、後に丹後の国守に任ぜられ人買いの制度を無くし、悪行を重ねた山椒大夫親子を成敗する。そして母を探しに佐渡へ渡る。中々探し出せない中、盲目のみすばらしい老婆に出合う。その老婆のつづやく(安寿恋しやホウヤホレ、厨子王恋しやホウヤホレ)という歌から母と分かるという小説です。今回は、以前から一度は行きたいと思っていた丹後由良。遠すぎて行く機会が無かったが、今回由良ヶ岳に登ることが決まり担当リーダーを務めることにしました。コースは京都丹後鉄道・丹後由良駅から国民宿舎丹後由良荘(廃業か?)を目指す。駅から歩き始めてすぐに「標高4m」の表示、しばらく歩くと国民宿舎の裏に登山口、入口横に「山の案内所」(無人)がありました。途中までは急登。深くえぐれた溝の中を進む。登り始めて2時間程で東峰と西峰をつなぐ鞍部(595m)に到着。まずは東峰へ。東峰の頂上には「虚空蔵菩薩」が祀られた石積みの祠がありました。祠の前に立つと眼下に若狭湾が広がり日本海も一望。また京都丹後鉄道の由良川橋梁、目を転じると若狭富士と呼ばれる三角錐の青葉山の素晴らしい景色が広がる。東峰から一旦鞍部に戻り西峰へ。東峰も西峰も640mと東京スカイツリーの標高とほぼ同じ。西峰への行程は東峰に比べて距離は遠いが、ブナ林の広がるゆるい傾斜で楽ちん。西峰頂上に立つと「天ノ橋立」が見えました。西峰頂上からは長い下り一方の道をスリッパに注意し登山口の「山の案内所」へ帰着。ここに置いてあった由良地区公民館の発行する「由良嶽登山 登山証明書」を1枚もらう。日付は自分で記入するが、このような案内所を設置、証明書を発行している山も珍しい。由良地区の方々の由良ヶ岳への愛を感じると共に、良い登山記念にもなりました。丹後由良駅から由良海岸へ向かい、波の打ち寄せる日本海で例会を解散としました。記録:野原 | | | | | | | | |
| 連番 | 1150 | 例会No. | 一般 775 | 内容 | 北摂・半国山、小和田山 | 実施年月日 | 2023/7/2 | 担当者 | 杉本、小椋(勝) |
| 参加者 | 堀、佐野、小椋(美)、安岡、大森、中野、谷、岩本、渡辺、上野、西村(美)、黒澤、駒井、川崎 | | | | | | | 参加者数 | 16 |
| 担当者 | コメント 前日までの大雨も収まり朝から晴れ間が望まれる天候となった。赤熊バス停付近からしばらくして地蔵尊が現れここから登山道が始まる。音羽溪谷沿いにハイキングコースがあるが以前の大雨で登山道が流されて旧道と溪谷の間に新しく登山道が付けられている。40分で音羽の滝が現れる。音羽の滝はこのコースの一番の見どころの滝だけあって二条に落ちる様は一見に値する。前日までの雨で水量も多く豪快な滝になっている。半国山までは樹林の中の沢沿いの道なので涼しくて気持ちの良い登りが続く。山頂からは樹木の隙間から亀山方面が眺められる。山頂を後にして1時間半ほどで千ヶ畑の登山口に降りると、そこは舗装された道になり日中で一番暑い時間帯の直射日光が降り注ぎ、先ほどの涼しさと裏腹に厳しい暑さが体に堪える。小和田山への取付きは1段が奥行10cm程度の靴を横にしないと登れないコンクリートの急階段を上る。下りは気を付けないと危険なほどである。小和田山へは急な登りもなくきれいに草刈りがされていて気持ちの良い登りが続く。山頂から登ってきた道を戻り千ヶ畑からタクシーで亀山駅へと戻りました。記録:杉本 | | | | | | | | |
| 連番 | 1151 | 例会No. | OP 370 | 内容 | 大峰・モジキ谷 | 実施年月日 | 2023/7/2 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者 | 増水中止 | | | | | | | | |
| コメント | | | | | | | | | |
| 連番 | 1152 | 例会No. | 一般 776 | 内容 | 近江富士・三上山 ふるさと富士を巡るシリーズNo.7 | 実施年月日 | 2023/7/9 | 担当者 | 杉本、野原 |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | |
| 担当者 | 雨天中止 | | | | | | | | |
| コメント | | | | | | | | | |
| 連番 | 1153 | 例会No. | OP 371 | 内容 | 富士山 | 実施年月日 | 2023/7/14~16 | 担当者 | 野原、前田、森本(善)、山倉(康) |
| 参加者 | 谷、岩本、喜多田、和田、實繰、中川、石上、砂山、佐野、大森、上野、小椋(美)、大岡、中野、中原(正)、中原(俊)、(会員外)附野 | | | | | | | 参加者数 | 21 |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

7/14(金) 早朝の難波、西梅田に集まったメンバー21名。コロナ対策として大型観光バスをチャーター、1人で2席を使いゆったりと富士山へ向かいました。途中、富士宮口五合目に向かうべきところ、吉田口五合目に向かうというまさかのミスが発生。バス走行中に気づき方向修正を指示。運行指示書を見せてもらうと運転手のミスではなく、会社側の運行指示書の記載ミスが原因と判明。富士宮口五合目登山口で身支度を整えスタート。6合目の雲海荘、宝永山荘を通過し本日の宿、新七合目・御来光山荘到着。夕食後、直ぐに就寝に入るが後から到着した外国人客の声がうるさく一睡もできなかった。7/15(土) 真夜中午前0時起床、小屋は出発する客で大混雑。午前0時40分頃御来光山荘出発。小屋を出ると強風が吹きつけていました。元祖七合目・山口山荘でメンバーの1人が体調を崩す。小屋に少しの間でもいいから休ませてくれないか交渉するも厳として受け付けない。仕方なく山倉リーダーの付き添いで下山。担当リーダーとしても残念でしたが、本人が最も残念だったと思います。元祖七合目・山口山荘上部から本格的にジグザク道が始まり、八合目・池田館を経て九合目・万年雪山山荘到着。富士宮ルートで初めて、この時間帯にも利用できる食堂がありコーヒーやお汁粉等を飲みほつてきました。九合目・万年雪山山荘から九合五勾・胸突山荘を経て、頂上直下の白い鳥居をくぐって富士宮口頂上、本宮浅間大社奥宮到着。奥宮を参拝したり、郵便局に立ち寄りたり、全員で登頂写真を撮ったりと思い思いに過ごしました。その後、強風の中を富士山頂剣ヶ峰に向かう。登山ルート毎に登り切った地点を山頂と名乗ってはいますが、やはり、この剣ヶ峰(3,776m)こそが正真正銘の富士山頂、日本最高地点、日本のてっぺんです。この剣ヶ峰で奥宮に戻るグループとお鉢巡りグループに分かれる。奥宮に戻るグループには森本リーダーがついてくれました。お鉢巡りは強風ではあったが順調に吉田口頂上の売店が並ぶ場所を通過。朝日岳手前の荒巻(火口から吹き上げる風の通り道)で猛烈な暴風に会う。吹き飛ばされないように風よけの石垣を必死に掴みながら突破。荒巻を通過後は特段の困難はなくスタート地点の奥宮に到着、売店で休憩後下山開始。富士宮ルートは往路がそのまま下山路になる。今日は真夜中にスタートしただけに、休憩を多く取ってはいるがメンバーの疲れもピーク。ゆっくり、慎重に下山を開始する。途中、メンバーの1人が体調不良を訴え、元祖七合目・山口山荘で休憩。森本リーダーとメンバー1人が付き添うことになった。新七合目・御来光山荘で預けてあった荷物を受け取り五合目に向けて下山を再開し、富士宮口五合目に全員集結後観光バスで旅館に向かいました。宿泊した旅館は富士山の展望が最大の売りになっており、最上階の大浴場から見た富士山は見事の一言でした。

7/15(土)の富士山頂気象(気象庁調べ)最高気温7.1℃ 最低気温1.5℃ 風速20~26m/s(荒巻ではこの数値は超えていたと思われる) 7/16(日) 早朝から旅館の近くにある「富士山本宮浅間大社」をメンバー各々で参拝を済ませ、午前8時に大阪へ向け出発しました。今回の例会は、予定した全行程を全て達成できました。昨夜の夕食時に「快挙」と言いましたが、その気持ちはこの原稿を書いている今も変わりません。参加されたメンバーの頑張りと体力に敬意を表します。本当に、本当にお疲れさまでした。記:野原

| | | | | | | | | | |
|----|------|-------|--------|----|------------------------|-------|-----------|-----|----------|
| 連番 | 1154 | 例会No. | 一般 777 | 内容 | (ベーシック登山No.73) 大和・音羽三山 | 実施年月日 | 2023/7/23 | 担当者 | 杉本、山倉(康) |
|----|------|-------|--------|----|------------------------|-------|-----------|-----|----------|

| | | | |
|-----|---|------|----|
| 参加者 | 原(正)、原(康)、山田、山崎、石山、砂山、中川、西向、森本(善)、中村、佐野 | 参加者数 | 13 |
|-----|---|------|----|

担当者コメント
 今年は例年に比べ暑い日が続いていて今例会が梅雨明け最初の例会となりとにかく暑いです。バス停のすぐ先に音羽観音の標識がありコンクリート舗装された参道を登っていきます。音羽観音には奈良県の高校の山岳部の生徒が2人休憩していたので聞いてみると今日は夏山合宿のためのトレーニングに来ているそうです。境内には樹齢約600年の大銀杏が、いちよの葉と一体になった珍しい実をつけるため「お葉つきイチョウ」と呼ばれ、胞子で増えるシダ植物から種を持つ裸子植物への古代銀杏だそうです。残念ながら実を見つけることができませんでした。ここから登山道が始まります。音羽山展望台までは桜が植林されている。展望台を過ぎると樹林帯に入り暑さも和らぎます。経ヶ塚山には梵字を刻んだ石碑が置かれて、多武峰の鬼門にあたるため経文が埋められたことから付いたと言われています。大峠まで下って来ると「女坂伝承地」の石柱と祠が建っている。ここからは道幅も広く歩きやすくなりました。約1時間で不動滝バス停となり、不動滝は斜面から突然水が噴き出したような滝でした。記録:杉本

| | | | | | | | | | |
|----|------|-------|--------|----|----------|-------|--------------|-----|----------------|
| 連番 | 1155 | 例会No. | OP 372 | 内容 | 八ヶ岳連峰 赤岳 | 実施年月日 | 2023/7/28~30 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善)、西野 |
|----|------|-------|--------|----|----------|-------|--------------|-----|----------------|

| | | | |
|-----|-----------------------|------|---|
| 参加者 | 大森 佐野 上野 有永 原(康) 原(正) | 参加者数 | 9 |
|-----|-----------------------|------|---|

担当者コメント
 7月28日 難波には予定より30分早く全員集合していただき出発しました、途中中央道の恵那山トンネル内での追突事故の影響で多少渋滞しましたが昼過ぎには西野邸に到着し西野さんを拾って桜平駐車場に到着しました。14時10分、駐車場を出発ししばらく歩くと雷雨に襲われ急遽雨具を着こみます、夏沢鉱泉あたりで小降りになりオーレン小屋に到着時には雨も止んでいましたが靴の中まで濡れている人もいました。7月29日 今日から本格的な八ヶ岳縦走になります、当初予定では黒百合ヒュッテから天狗岳へ、ここから主稜線を阿弥陀岳まで南下する予定でしたが黒百合ヒュッテの予約が取れず、オーレン小屋から箕冠山経由で東天狗往復後南下することとなりました、5時50分小屋出発、樹林帯を抜けると天狗岳方面の視界が広がります、根石岳を過ぎ途中根石山荘に荷物をデポし東天狗岳へ7時30分到着、ここから主稜線の南下が始まります、西天狗を除く7座の縦走です、夏沢峠では多くの登山者がいましたがヒュッテは閉鎖されているようです、赤茶けた登山道を硫黄岳へ9時45分到着、いったん下って広い尾根を横岳基部へ、冬季に何度かこの稜線を歩いていましたが無雪期の八ヶ岳は初めてです、高低距離は短いですが変化のある稜線です、有永さんの大同心や小同心あたりの厳冬のルート解説を聴きながら11時15分横岳着、小休止後また下ります、赤岳はもう目の前です、地蔵の頭を過ぎたあたりから本日最後の急登が始まり、13時45分赤岳着、今日は頂上山荘にお世話になります、時間も早いのでビールで乾杯し山の話で盛り上がっていました。7月30日 日の出は5時前です、ご来光を見るため小屋の周囲は早朝から多くの登山者です、今日も天気は良さそうです、5時30分準備を済ませ出発、阿弥陀岳へは鎖場や岩稜が続きます、手足を使つての上り下り、有永、西野、森本の指導の下無事本山行の最後のピーク阿弥陀岳へ7時15分到着しました、あとは長い下りを約4時間、11時に美濃戸口へたどり着き今回の山行を終了しました。今回の山行は小椋代表が企画されていましたが、仕事が忙しくて参加できず私にチーフリーダーを任せられました、しかしながら、西野さん、森本さん、有永さんと言うベテランがほとんど行動中の指導をしていただきありがとうございます、森本さんと登山ガイドの西野さんがトップを務めていただき、又有永さんは岩場での行動や八ヶ岳冬季ルートの解説など経験と知識を生かした指導をしていただき感謝しています、参加メンバーも楽しく愉快地に過ごせたと思います、ありがとうございます。記:山倉(康)

| | | | | | | | | | |
|----|------|-------|--------|----|-------------------|-------|----------|-----|-------------|
| 連番 | 1156 | 例会No. | 一般 778 | 内容 | 笹ヶ岳・歴史探訪シリーズNo.52 | 実施年月日 | 2023/8/6 | 担当者 | 小椋(勝)、山倉(康) |
|----|------|-------|--------|----|-------------------|-------|----------|-----|-------------|

| | | | |
|-----|----------------------------|------|---|
| 参加者 | 森本(善)、佐野、大森、祓川、山倉(知)、小椋(美) | 参加者数 | 8 |
|-----|----------------------------|------|---|

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|--------|----|---------------------------------------|-------|-----------|------|-------------|--|--|
| 担当者コメント | <p>家康伊賀越えの難所は数あり有力な峠が桜峠、もう一つ謂れがある御齋峠その二つの峠を結び山行にと予定をしていましたが、前日タクシーの手配をすると、各社からタクシーの台数が少ないため待ち時間が約束できないと言われ急遽、車での移動に変更し桜峠へ。行程も桜峠から笹が岳、下山は南新田に変更しました。桜峠の駐車場から西に歩き牧場跡の登山道へ入る。しかし国土地理院の地図にはしっかりと道は記載されているが取付きも分からない。やっとの思いで登山道らしき道を探し登り始めるが笹で道がわからずGPSを頼りに藪掻きながらブッシュをかき分け急登の登山道を登っていく、P568を過ぎ尾根に出るとしっかりとした登山道に出た。そこから登山道を少し北に歩き笹ヶ岳の頂上へ、頂上には大きな狸の置物がありほっこりさせてくれた。帰りはさすがに来た道は考えたくなく一般ルートで下山し南新田の集落に下山し交通量の多い国道をあるき駐車場へと向かった。駐車場で一休み後解散し帰阪しました。今回の歴探は歴探らしからぬ急登、急下りできつい山行になり何も言わずついてきてくれたメンバーに頭が下がりました。記録:小椋(勝)</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1157 | 例会No. | 一般 779 | 内容 | 伊吹山 | 実施年月日 | 2023/8/11 | 担当者 | 野原、杉本 | | |
| 参加者 | 谷、佐野、喜多田、岩本、中川、大岡、前田 | | | | | | | 参加者数 | 9 | | |
| 担当者コメント | <p>今回の伊吹山例会で初めて取った行動が3つあります。一つ目が真夏の伊吹山の日帰り登山。日陰の無い伊吹山にこのくそ暑い時期に登ることは、この山を知っている者なら熱中症を警戒し躊躇します。それを可能にしたのは登山バスの存在でした。二つ目が例会計画時には想定していなかった大雨による正面登山道の崩壊。正面登山道を下山する予定を頂上のお花畑周りに切り替えたため、丘歩きのような例会となった。三つ目が行動開始直後からメンバーの行動を自由にしたこと。頂上の日本武尊像前に集まる時間だけ決めて、メンバー各々が好きなだけ花や景色を楽しむ時間を持てるようにしました。EPEで例会のリーダーを担当して十数年、初めての判断でした。EPEメンバーなら無茶な行動はしないとの信頼があったこと。時間に余裕がたっぷりあったこと。頂上周辺の周回路の安全性にまったく迷いを感じなかった点にあります。米原駅のバス乗り場周辺は登山客で溢れかえっており、切符売り場の係員に聞くと、満面の笑顔で今日はバスを3台用意したが予約で満席とのこと。やはり乗客が多いのは嬉しいようだ。1時間20分の乗車で伊吹山9合目のスカイテラス伊吹山に到着。本日限定、先着1,000名配布の伊吹山植物ガイドブックを貰い自由行動スタート。当初の期待とは裏腹に、私に分かったのは「ルリタノオ」「シモツケソウ」「シシウド」「キオン」「クガイソウ」「イブキジャコウソウ」「サラスナショウマ」「イブキボウフウ」「アカソ」など極わずか。花に詳しい方ならもっと分かったはず。頂上からは眼下に琵琶湖や広大な濃尾平野、目を転じれば対岸の比良山、比叡山、遠く白山、御岳、日本アルプスの山々が望めました。また、山頂の気温は下界より10℃程度低かったようで、じっとしていると暑さが全く気にならない程度で吹く風も心地よい。頂上を後に下山開始、ガイドブックで所要時間1時間の東登山道を30分で下山できました。伊吹山登山バスに乗車、米原駅前前で解散としました。因みに本日は「山の日」限定価格でバスの運賃が半額とお得な1日でした。記録:野原</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1158 | 例会No. | 一般 780 | 内容 | 金剛山・ツツジオ谷 | 実施年月日 | 2023/8/20 | 担当者 | 西村(晶)、森本(善) | | |
| 参加者 | 中村、小椋(美)、谷、岩本、山倉(知)、山倉(康)、黒澤、小椋(勝)、峯岡、有永、村木(と)、村木(正)、山田、山崎、三原 | | | | | | | 参加者数 | 17 | | |
| 担当者コメント | <p>暑い季節に涼しさを求めて水の流れる谷筋沿いに登りましたが、今年の夏は暑い。30分程歩くと小休憩、汗が滴り落ちます、水分補給が必要です。ツツジオ谷の上部は足元が不安定なので標高900m辺りより、タカハタ道に登り返しました。稜線に出ると冷気を含んだ涼しい風に身体が癒されます。山頂広場で涼しさを感じながら日陰で昼食後セト経由で登山口まで下りました。山頂付近では秋の花、萩が咲いてました。記録:西村(晶)</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1159 | 例会No. | 一般 781 | 内容 | 金剛山・サネ尾 | 実施年月日 | 2023/8/27 | 担当者 | 杉本、小椋(勝) | | |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | | | |
| 担当者コメント | <p>中止</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1160 | 例会No. | OP 373 | 内容 | 比良・白滝谷沢登り | 実施年月日 | 2023/8/27 | 担当者 | 前田、山倉(康) | | |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | | | |
| 担当者コメント | <p>中止</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1161 | 例会No. | 一般 782 | 内容 | 創立20周年記念山行・ふるさと富士を巡るシリーズNo.8 紀州富士・龍門山 | 実施年月日 | 2023/9/3 | 担当者 | 小椋(勝)、西村(晶) | | |
| 参加者 | 山倉(康)、山倉(知)、上野、杉本、大森、佐野、西向、安岡、村木(正)、村木(と)、中村、石上、砂山、中嶋、小椋(美) | | | | | | | 参加者数 | 17 | | |
| 担当者コメント | <p>粉河駅に集合し竜門橋北 紀の川市支所付近で挨拶をすませ歩き始めるが暑い、目の前に大きく見える竜門山が暑さで果てしなく高く遠くに見える。竜門橋を渡り日陰のない街中から果樹園を抜け森林地帯に入る。やっとして日陰に入れるが、暑さで熱中症にならないかと心配しながら田代峠へ向かう。田代峠で昼食を済ませ山頂へと向かう、ここからは風もあり快適な尾根道を歩く。磁石岩を通過し山頂に着いたときにパラグライダーとハングライダーが青い空の下気持ちよさそうに山頂を周回し飛んで行った。山頂で少し休憩し下山する。途中明神岩を見学し農道に出る。農道を歩き果樹園に出ると道路の反射熱で暑い、熱気が直接肌を刺す。暑い中竜門橋を渡り解散する。今回、休憩を多く取り水分補給も進めたが、軽い熱中症になった人もいた。世界的に気温上昇の中、夏の低山登山は熱中症などのリスクが多く山行の在り方を考えないといけない時代になっているとつくづく感じました。記録:小椋(勝)</p> | | | | | | | | | | |
| 連番 | 1162 | 例会No. | 一般 783 | 内容 | 二上山～近つ飛鳥風土記の丘 | 実施年月日 | 2023/9/10 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) | | |
| 参加者 | 中村 杉本 山倉(知) 佐野 附野 大森 西向 中川 西田(ゲスト) 長谷川(ゲスト) | | | | | | | 参加者数 | 12 | | |
| 担当者コメント | <p>9時、近鉄二上神社口駅に集合、今日も暑い1日になりそうです、集落の中の道を登山口の二上山神社へ、すでに汗が噴き出します、樹林の中へ入って日差しは遮られますが風通しが悪く雄岳に到着したころには皆汗だくでした、11時30分雌岳 下の四阿へ日陰を求めて昼食休憩、12時今日一つ目の岩屋峠へ出発、12時30分二つ目の峠、竹ノ内峠で水分補給、今日もこまめに水分補給をとりました、三つ目の峠平石峠からはいったん平石集落へ下り高貴寺へ14時40分着、近つ飛鳥へ出 発するころには西方向に遠雷が聞こえ始めました、ちょっと急がないと雨に会いそうです、15時40分近つ飛鳥博物館に到着した直後に夕立が降り始めました、ここで解散とし、駅までは太子町在住の森本さんご夫妻に車を出していただきお世話になりました。記録:山倉(康)</p> | | | | | | | | | | |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|--------|----|--|-------|--------------|-----|----------------|----|
| 連番 | 1163 | 例会No. | OP 374 | 内容 | 利尻山・大雪山 | 実施年月日 | 2023/9/15~19 | 担当者 | 森本(善)、山倉(康)、杉本 | |
| 参加者 | 大森、佐野、安岡、駒井、上野、西村(晶)、西村(美)、小椋(勝)、小椋(美)、山倉(知)、岡部、中原(正)、中原(俊) | | | | | | | | 参加者数 | 16 |
| 担当者コメント | <p>利尻山登山記9月15日(金)12:00 驚くほどの快晴蒼空の利尻空港滑走路にタラップで降り立った我々は何気なく振り返った途端そこから望まれる利尻山の秀麗な姿に、声を上げるもの息をのむものそして一時立ち尽くしてしまいました。空港からは迎えのマイクロバスで波うち際の旅館雪国着。部屋の窓から美しい夕焼けを望みながら明日の登山準備を終えました。9月16日(土)4:45 雪国をマイクロバスにて出発。5:00山麓野営場登山口(210m)より星が瞬く快晴の中、利尻山への第一歩を踏み出しました。ルートは頂上から北に延びている鴛泊コース。標高差約1500m、距離は往復12.56kmの尾根です(利尻山への登山道は東側、南東側、そして北側の3コースがあります)。途中日本最北端名水百選の甘露泉水を通過しボン山、小ボン山のすそ野を巻き、傾斜が緩く明るい森の中を徐々に登ると、6合目(760m)の第一見晴台着。そこからは眼下に鴛泊港、利尻空港、日本海(宗谷岬の向こうはオホーツク海です)、遠く礼文、稚内、そしてカラフトがかすかに望まれました。息をのむような素晴らしい眺めです。その後標高は低いのに780mあたりからハイマツが現れ頂上を望むことができました。この頃よりガスに覆われたし7合目(895m)の第2見晴台を過ぎやっど8合目の一等三角点である長官山着(1218m)(8時10分)。眺めは最高です。頂上を仰ぎ見ることができ、眼下には登ってきたコースや周りのなだらかな利尻岳の山容も見渡せました。突然、北海道警察のヘリコプターが我々の頭上すれすれまで近づき隊員3人がヘリのドアを開け眼下を偵察していました。しばらくホバーリングした後上昇し前方にある利尻岳避難小屋から遭難者1名をロープでピックアップし素早く下降していきました。その後は、樹間やハイマツの間から時々眺められる日本海等に励まされながら弱やかな尾根上を登り続け、杓形登山ルートとの合流点の9合目着。案内板には「ここからが正念場」と書かれています。ガスがより濃くなり風も強く、時おりガスの合間から見え隠れするローソク岩に歓声をあげながら火山礫のザラザラした崩壊の著しい急登の登山道を頂上へと黙々と登る。ガスがより濃くなり風も強く、時おりガスの合間から見え隠れするローソク岩に歓声をあげながら火山礫のザラザラした崩壊の著しい急登の登山道を頂上へと黙々と登る。祠の前で記念写真を撮り12:00には下山開始。同ルートを慎重に下り長官山ではガスもはれ、利尻山頂上や日本海などが眺められるようになり気分も最高です。しかしその後は徐々に疲れも出だし、長い鴛泊コースを無口になり、15:00に出発地点である山麓野営場着。雪国のマイクロバスが迎えに来て、その晩は宿の温泉とジンジャーエール&ビール、そして宿の横から湧き出ている「長寿の水」を飲み明日の移動日に備えました。9月17日(日)朝、島の南海岸にあるオタドリ沼を観光し、フェリー乗り場の鴛泊港を北風から守り抱くように東北東に突き出ている海拔92.7mの「恋する灯台」ペシ岬を登りました。岬の高台には江戸時代に利尻島警備のための会津藩士の墓碑があり、墓前には可憐な花が供えられていました。昼食後、ウミネコに見送られながら鴛泊港から12:30出航のフェリーで稚内に向け海峡を渡りました。稚内からは次の目的の山である旭岳(旭川)に向けチャーターバスに乗り込みました。やや曇り空でしたが、北海道の広さと道の真っすぐさそして牧場の景色を満喫し旭川に19:00着。旭岳登山記 9月18日(月)前日からの雨と深夜の大雨警報にショックを受けながらもホテルをチャーターバスにて8:00出発。9:00大雪・旭岳ロープウェイ乗り場着(1600m)。しかし、天は我々を見放さなかったのです。車中、時折雲間から明るい日差しが射し、雨は止みロープウェイ終点の姿見駅(1600m)からはガスと強風にもどもせず全員頂上へと登りだしました。登り下りで出会う人は外国人ばかりでした。火山礫や溶岩の広い斜面に作られた登山道を1時間ひたすら登り途中大岩の陰で休憩。しばらく登ると若干急登になり稜線に出る。そこからますますの強風とガスの中11:10 北海道最高峰の旭岳頂上着(2291m)。(一等三角点)視界のない強風の中、記念写真を撮り同ルートを下りました。ロープウェイ駅(姿見駅)近くの火口湖の姿見池や真っ白い噴煙を観ながら周遊路を楽しみ会話歩行し14:00姿見駅着。時折見せるガスの切れ間以外の視界はありませんでしたが、利尻岳+、旭岳を全員で登頂することができ、充実した気持ちでいっぱいになりました。14:30 同じチャーターバスにて札幌に向かって出発。どこまでも真っすぐな高速道路。17:30札幌のホテル着 北海道縦断バス旅でした。その晩は、登頂祝賀会と銘打ってジンジャーエール&ビールで乾杯。19日(火)札幌の街を各自観光し、新千歳空港17:00離陸の飛行機で大阪伊丹へ。飛行機あり、ヘリコプターあり、フェリーポートあり、バスあり地下鉄あり、北大あり、雨あり、ガスあり、強風あり、沼あり海ありそして登山(利尻山・旭岳そしてペシ岬の3峰)ありの盛沢山な山行でした。記:森本(善)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1164 | 例会No. | 一般 784 | 内容 | 創立20周年記念山行・ふるさと富士を巡るシリーズNo.9 大和富士・額井岳 | 実施年月日 | 2023/9/24 | 担当者 | 前田、山倉(康) | |
| 参加者 | 中原(俊)、大森、佐野、山田 | | | | | | | | 参加者数 | 6 |
| 担当者コメント | <p>今年の夏は暑く、彼岸に入ってようやく朝夕が涼しくなって来た。富士山シリーズ(No9)額井岳 榛原駅からバスで天満台東2下車。これから行く額井岳や戒場山がよく見える。住宅地を過ぎて田んぼの周りは、真っ赤な彼岸花が咲いていた。急坂を登ると、十八神社に着いた。榛原の町や高見山、三峰山がよく見えた。ここから登山道になり、急登が続く。1時間程で額井岳の山頂に着いた。周りは木々が生えて展望がきかない。そこから急な下り、鞍部から登り返して戒場山に着く。ここも樹林帯で展望がきかない。昼食を食べて、急坂を下ると戒長寺に出た。苔むした古い寺である。その後、休耕田の多い田園地帯を見ながら、のんびりと歩いた。途中で山部赤人(田子の浦にうちいでて見れば・・・奈良時代の歌人)の墓に参った。苔むした大きな五重石塔がひっそりと立っていた。近回りの藪漕ぎ道を下って、天満台の住宅地から榛原駅にて解散をした。記録:前田</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1165 | 例会No. | 一般 785 | 内容 | 創立20周年記念山行・ふるさと富士を巡るシリーズNo.10 日高富士・真妻山 | 実施年月日 | 2023/10/1 | 担当者 | 西村(晶)、山倉(康) | |
| 参加者 | 佐野、大森、小椋(美)、村木(正)、和田(敬)、森本(善)、山倉(知)、西向、中川、喜多田、實操、有永、西村(美) | | | | | | | | 参加者数 | 15 |
| 担当者コメント | <p>マイカー4台で大滝川森林公園駐車場へ。谷筋の登山道は緩やかでしたが徳本上人初行洞窟より きつい登りが始まる。雑木林の中でも少し涼しさを感じる季節になりました。頂上は芝生の丘になっており、360度の展望を楽しむことができました。下山路は東に延びる尾根を下る、496mピークの手前より緩やかな尾根を下り大滝川森林公園に向かう。記録:西村(晶)</p> | | | | | | | | | |
| 連番 | 1166 | 例会No. | OP 375 | 内容 | 中山・大品山 | 実施年月日 | 2023/10/7~9 | 担当者 | 西村(晶)、杉本 | |
| 参加者 | 大森、佐野、安岡、上野、小椋(美)、山倉(知)、山倉(康)、村浪、中村、岩本、三原、村木(と) | | | | | | | | 参加者数 | 14 |

2023年度('22/11~'23/10)EPEクラブ活動報告

2023/10E現在 小椋

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|--------|----|-------------------------------|-------|---------------|------|-------------|--|
| 担当者コメント | 10/7晴時々曇り 馬場島より見上げる小窓尾根のマッチ箱と剣尾根は数日前に降った新雪で輝いていました。北陸自動車道が工事の為、馬場島に着くのが遅くなりましたが、暗くなる前には帰ってこられる予定で出発しました。東小糸谷に入り谷沿いに登ります、5月中旬の季節になると、山菜のコゴミ、タラの芽、ウド、ヨモギが沢山見受けられる谷です。登り詰めた峠から少し歩くと中山の頂に着くことが出来ました。楽しみにしていた頂上からの剣岳は雲の中に隠れていましたが、雲の切れ目からブナグラ谷の奥にブナグラ峠を望むことが出来ました。晴れておればゆっくりと剣岳の眺望を楽しみたいのですが、ガスに隠れて何もみえませんが、暗くなる前に中山登山口まで降らなければと早々に下山を始める、立山杉の巨木を横目で見ながら一路中山登山口を目指す、ライトが必要になる前に登山口まで降りる事が出来ました。立山町の宿泊先まで車で移動する。10/8曇り あわすのスキー場より登山開始です、昼すぎから雨の予報ですが、なんとか持ちそうな空模様です。スキー場の横を通り百間滑の橋を渡り瀬戸蔵山まで610mの登りです、2時間15分のがんばりで1320mの瀬戸蔵山の頂上に。頂上からの眺望は大日岳と純白の新雪に覆われた立山を望む事が出来ました。大品山まで1時間となっていたが40分程で頂上に到着、みんなが私たち早いんやねと自画自賛、頂よりブナ林の中を通り真川ダムまでの急坂を下りあわすのスキー場を下る。記:西村(晶) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1167 | 例会No. | OP 376 | 内容 | 創立20周年記念山行・岩湧山集中登山 | 実施年月日 | 2023/10/15 | 担当者 | 総括:西村(晶) | |
| 参加者 | 前田、野原、中原(正)、中原(俊)、村木(正)、村木(と)、谷、北山、有永、上野、木下、大森、佐野、保木、大岡、實操、秦、小椋(美)、飛田、中山、附野、山倉(康)、森本(善)、杉本、安岡、岩本、黒澤、原(康)、山田、山崎、西村(美)、峯岡、安本(嘉)、原(正)、中村、鈴木(ゲスト)、鎌苅(ゲスト)、西村(晶)、山倉(知)、神坂、近藤、安本(昭)、三原、翁長、祓川、飯尾、笠松、秋田 | | | | | | | 参加者数 | 48 | |
| 担当者コメント | 前日の夕方から朝方まで雨模様の天気予報でしたが、朝方には雨も上がり良い天気になりました。3つのコースで71名が参加されました、各コースの担当リーダーは下見にも行かれてルートの状態が悪いアシ谷コースは砥石谷に変更されました。集合場所では泉州山岳会現役メンバーが大きい鍋にぜんざいを作って出迎えてくれました。12時40分砥石谷コースの29名がゴールして全員71名が集まりました。西村より開会の挨拶を行いEPEクラブ森本の挨拶そして泉州山岳会会長の挨拶に始まり創立20周年の式典が始まりました。各コース毎に前に出てもらい森本より記念品をお渡ししました。記念品はナルゲンの水筒で「20th EPE CLUB 岩湧山集中登山 2023.10.15」のシールが貼られています。これからの山行で使ってください。最後にみんなで集合写真を撮りました。記録:西村(晶) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1168 | 例会No. | OP 377 | 内容 | 鈴鹿・入道ヶ岳、鎌ヶ岳 | 実施年月日 | 2023/10/21~22 | 担当者 | 小椋(勝)、杉本 | |
| 参加者 | | | | | | | | 参加者数 | | |
| 担当者コメント | 中止 | | | | | | | | | |
| 連番 | 1169 | 例会No. | 一般 786 | 内容 | ベーシック登山No.74) 柳生街道(剣豪の道~笠置の道) | 実施年月日 | 2023/10/22 | 担当者 | 山倉(康)、森本(善) | |
| 参加者 | 森本(咲)、中原(正)、中村、渡辺、安本(昭)、安本(嘉)、保木、駒井、飯尾、佐野、長谷川、西田、堀 | | | | | | | 参加者数 | 15 | |
| 担当者コメント | 柳生街道は奈良市内から柳生の里に通じる古道です、かつてには柳生新陰流の(柳生の剣)を求める多くの武士が、この街道を通って柳生の里へ足を運んだといわれています。剣豪の道は昨年歩いた滝坂の道に続く後半になり、柳生の里は人気アニメの鬼滅の刃の舞台にもなったそうです、はたして剣豪たちが本当に今日の道を歩いたかどうかは定かではありませんが、道中にはロマンあふれる史跡が多くありました、忍辱山から柳生の里まではいろいろ見学し、ゆったりしたペースで歩きました、途中のかえりばさ峠は今日唯一の急登で、これを超えると柳生の里の核心部です、柳生藩陣屋跡に続き、旧柳生藩家老屋敷などを見学しているうちに2時を過ぎてしまいました、笠置への道の途中からは車道を下り、15時笠置駅に到着し5時間のウォーキングを終了としました、普段の山登りとは違うハイキングでしたが皆様楽しんでいただけたのではないのでしょうか、ありがとうございました。記録:山倉(康) | | | | | | | | | |
| 連番 | 1170 | 例会No. | 一般 787 | 内容 | 六甲山・白水尾根~東お多福山 | 実施年月日 | 2023/10/29 | 担当者 | 杉本、山倉(康) | |
| 参加者 | 中村、三原、中川、砂山、石上、保木、山倉(知)、安岡、中原(俊)、大森、上野 | | | | | | | 参加者数 | 13 | |
| 担当者コメント | 今年の春に白水峡墓園付近で発生した土砂崩れの復旧工事が続いて、予定していた白水墓園バス停を迂回し有馬温泉までバスに乗る羽目になった。有馬温泉から白水峡墓園まで4Kmを歩き予定の登山口に到着する。ここで1時間の遅れになる。取り付きが解りづらく、踏み跡はあるが枯れ枝に覆われている。白水峡墓園入り口の前にある踏み跡から取り付く。白水尾根の稜線に着くとはっきりとした道になる。しばらくして左手には座頭谷のような崩落地が出てくる。足元は切れ落ち気を付けて歩かないと左側に落ちてしまう。このルートには案内の標識が1つもない。上部でテープが出てくるだけで地図を見ながらしっかりと歩かないとルートの間違う。1時間半で白山山に到着。白水山の山名板がない。足元にブロック片のようなものに山名が書いてあった。これがこのルートで見た唯一の標識だ。後鉢巻山の迂回道路まで登りは続く。昨年10月の十八丁尾根の例会ではこの迂回道路でアサギマダラの大群の乱舞が見られたが今年は時期が遅く見る事ができなかった。来年はもう一度見たいものである。ここから傾斜もゆるくなり多くの人が歩いていると道も歩きやすくなる。山頂下の広場で大休止とする。六甲山頂で集合写真を撮り、山頂から少し下ると、いつもながら神戸や大阪の絶景が望まれる。魚屋道を下り東お多福山まで登って来ると、ここから望まれる神戸や大阪の景色も素晴らしいものがある。記録:杉本 | | | | | | | | | |
| 一般例会： 45回/506名 オプション例会： 19回/190名 例会合計： 64回 参加者総数： 696名 | | | | | | | | | | |